

戦後改革期に教科書会社から刊行された教育雑誌 (14)

— 実業教科書株式会社の『高校教育』誌 (Ⅶ) —

尾 高 進
丸 山 剛 史

Journal Published by Textbook Publisher
under Educational Reform after World War II (14)

ODAKA Susumu, MARUYAMA Tsuyoshi

本報は前報までに続き、戦後改革期に実業教科書株式会社（1950年8月、実教出版株式会社に改称）から刊行された教育雑誌『高校教育』の目次を掲載するとともに、その内容構成上の若干の特徴について検討しようとするものである。目次集には、第21巻第1号から、事実上の終刊となる第24巻第11号までのものを掲載した。

『高校教育』（以下「本誌」）第24巻第11号（1972年11月）の奥付掲載ページ¹には、実教出版株式会社取締役社長水谷三郎名による休刊の辞が掲載されている（1972年10月1日付）。それは以下のようである。

「先生方には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より、『高校教育』理科資料をご愛読いただき、まことにありがとうございます。／さて、長らくご愛顧いただきました弊誌でございますが、御承知の如き諸物価の高騰、郵便料の値上げ等さまざまな悪条件が重なり、たいへん残念なことです。一時休刊いたすことにいたしました。ご了解いただければさいわいでございます。／なお、今後は別の形態で、現場教育のお役に立ちうる資料を発行いたすよう準備をいたしております。／末筆ながら、重ねて長いあいだの御愛顧に心からの御礼を申し上げますと同時に、今後もしつそうのご指導のほどお願い申し上げます。」

¹ 前報に記したように、第10巻第3号（1958年3月）を最後に、それ以降の号では編集後記が記載されなくなっている。このため、奥付掲載ページには、本文の記事と奥付、それにこの休刊の辞が掲載されているだけである。尾高進・丸山剛史「戦後改革期に教科書会社から刊行された教育雑誌 (13) — 実業教科書株式会社の『高校教育』誌 (Ⅵ) —」第50-2号、2013年2月、参照。

この休刊の辞から考えられることをいくつか以下に記してみよう。

(1) 休刊の理由について

休刊の辞によれば「諸物価の高騰、郵便料の値上げ等さまざまな悪条件」が重なったこと、すなわち、外在的な条件の変化が一時休刊の理由とされていることが分かる。

(2) 特集方式の誌面構成と製本様式について

後掲の目次集をみるとわかるように、第24巻第3号の目次には初めて「社会科教育資料 No.10」という記載がみられる。この号以後、終刊号となる第24巻第11号までのほとんどの号の目次には「〇〇科（教育）資料 No.〇」と記載されている（号によっては、No.の表記がないものもある）。「〇〇科」に入る教科名は、社会科のほか、国語科と理科である。

この「〇〇科（教育）資料」は、当該号の目次に照らしてみると、その号の、いわば特集内容を表しているとみられ、第21巻第4号から継続して、原則的に国語科、数学科、社会科、理科の各教科が順に特集されている。ただし、第21巻第4号から第24巻第2号までは、特集名は表紙に記載されている。

このように各教科の内容を特集するという編集方針は、第21巻第3号以前の号からもとられていた。しかし、第21巻第4号以降の特集と、それより前の号とでは、以下の点で違いがあるように思われる。

一つには、第21巻第4号以降の特集名の表記は〇〇教育「資料」となっており、資料としての性格を意図した編集方針がとられているとみられることである。これより前の号の特集名には、「資料」の表記はみられない。ただし、第21巻第4号以降の号の特集が、実際にも資料としての性格を強めたかどうかは速断はできない。各記事の内容に立ち入っての検討が必要であり、後日を期したい。

二つには、この特集は連続して3年以上継続していることである。これまでも各教科の内容が特集されたことはあったけれども、これほど継続したことはなかった。

三つには、第21巻第3号以前の号においては、家庭科が特集されたり（第18巻第3号、第19巻第4号等）、単発の記事ではあるけれども、英語の記事が掲載されたこともあるけれども、第21巻第4号以降の特集では、その対象教科は上述した4教科に限定されている。

四つには、第21巻第4号以降は、製本様式が号によって異なっていることである。すなわち『高校教育』誌は、通常は右開き（右綴じ）で製本されていたけれども、第21巻第4号以降は、数学科と理科が特集された場合には、左開き（左綴じ）で製本されている。それまでは、同じ号の中に縦書きと横書きが混在しているために、例えば右開き製本の巻頭から縦書きの記事が掲載されるとともに、巻末から横書きの記事が掲載される、ということもあった（第18巻5号、第6号等）。しかし、号によって、製本様式そのものが変わるということは、それまでみられなかったことである。

(3) 後継誌について

休刊の辞では「なお、今後は別の形態で、現場教育のお役に立ちうる資料を発行いたすよ

う準備をいたしております」と述べられている。これを字義通り解釈すれば、本誌の休刊の時点で、その形態はともかく、本誌の後継誌の発行が検討されていたことになる。あくまでも推測の域を出ないけれども「別の形態で、現場教育のお役に立ちうる資料を発行」という一節と、上記 (2) の内容を合わせて考えると、発行が検討されていた後継誌の性格は、高校教育実践に役立つ資料集のようなものであったかもしれない。

しかし、これまでに確認できた範囲では、本誌の後継誌は発行されてはいない²。

本誌は、1946 年 10 月 20 日に創刊号が発行された『工業教育資料』誌にその起源をもつ。『工業教育資料』誌は、1948 年 9 月 1 日に発行された第 2 巻第 9 号まで、約 2 年間に 20 冊（別冊附録除く）が発行された。この間、1948 年 4 月には中学校職業科に関する独立誌『職業科 — 新しい中学 —』誌が刊行され、中学校職業科関係の記事は『職業科』誌で扱われるようになった。

1948 年 10 月には『商業教育資料』誌と「合併」され、誌名は「商工教育資料」と改題された。『商工教育資料』誌は、1949 年 6 月までに 8 冊が発行された。さらに 1949 年 7 月には、『商工教育資料』誌は、「高校教育」と「改題」され³、1972 年 11 月までに 269 号が発行された。

ここに、約 26 年にわたって発行された本誌は、その幕を閉じることになった。ただし、『商業教育資料』は 1956 年に、『工業教育資料』は 1967 年に再刊されている。本誌との内容上の関係や休刊に対する影響等については、稿を改めて検討したい。

付記：解説は尾高が執筆し、丸山と協議の上、修正を施した。目次集作成は丸山が担当した。

² 久保義三・米田俊彦・駒込武・児美川孝一郎編著『現代教育史事典』東京書籍、2001 年 12 月、には「主要教育雑誌一覧」という項目があり、各種の教育雑誌の創刊年月や継続後誌等が掲載されている。それをみる限りでは、本誌の後継誌は発行されてはいない。

³ 丸山剛史・尾高進「戦後改革期に教科書会社から刊行された教育雑誌 (6) — 実業教科書株式会社の『工業教育資料』・『商工教育資料』誌 — 」『工学院大学共通課程研究論叢』第 47-1 号、2009 年、91-92 ページ。

資料.『高校教育』誌目次集

- ・本目次集を作成するにあたっては、編者が所蔵機関に出向き現資料を確認した。
- ・所蔵機関名を巻号・発行年月右横のカッコ内に記した。
- ・執筆者名右横のカッコ内の数字はページ数を表す。

第21巻第1号：1969年1月1日

(国立国会図書館)

生徒の職業観についての考察 (2)	浅見輝馬 (1)
農業後継者教育	
農業季節制高校教育「実践ノート」より (2)	
	樋口正巳 (7)
職業指導における職業情報と学習指導	
	沢田利夫 (10)
教育のレベルアップ	西尾栄次 (16)
盗人日記	滑川西之助 (18)
外国語の使用について	西本顕明 (22)
長髪問題総決算	大村博司 (23)
所感	佐藤成晃 (24)
学級日誌考	志田俊 (27)
沈丁花	岩坪巖 (27)
辺地および僻地教育の一問題	木村修康 (28)
英語の自主的学習態度育成のための指導	
	中野敬治 (29)

備忘抄

水谷三郎 (20)

実教歌壇

宮柊二選 (15)

実教俳壇

星野麦丘人選 (21)

第21巻第2号：1969年2月1日

(国立国会図書館)

芭蕉俳句の鑑賞	梅津たかし (1)
定時制生徒の減少化と本校の生徒募集対策	
	横田弘之 (12)
詩の指導と生活指導	若林芳樹 (6)
自然保護	星一彰 (8)
アラスカ	山口松蔵 (10)
平出遺跡を訪ねて	奥山隆夫 (22)
良師との出会い	宗像康夫 (23)
横話	横山好夫 (24)
学校新聞の思い出	大中一郎 (25)
商品取引	糟谷奨 (25)
公務不平等論	不二勇人 (16)
黒四ダムと木曽路	小林高寿 (29)
備忘抄	水谷三郎 (21)
実教歌壇	宮柊二選 (27)
実教俳壇	星野麦丘人選 (28)

第21巻第3号：1969年3月1日

(国立国会図書館)

生徒の先生観	清水秀之 (1)
香港の表情	富水慶一 (4)
私家本「滬東綺譚」	大野秋紅 (12)
菊抛げ入れよ	二唐空々 (18)
商業高校の英語教師として	八村伸一 (22)
あだ名	岡田貞義 (22)
人と車と道と	井口祐夫 (24)
文学の効用について	西山民雄 (25)
新しい歌ということ	桑水流三四郎 (26)
墓碑	山口利助 (27)
寅彦の手紙	森俊彦 (28)
備忘抄	水谷三郎 (20)
実教歌壇	宮柊二選 (11)
実教俳壇	星野麦丘人選 (21)

第21巻第4号：1969年4月1日

(国立国会図書館)

この道五十年	塩田良平 (1)
「現代国語一」三訂版新教材「春駒の記」紹介と鑑賞	山田昭全 (4)
実教出版刊「古典甲」改訂版 徒然草を教えてみて	小谷叙之 (10)
座談会 漢文入門期の指導について	(16)
正月の朝に思う	芳賀馨 (30)
備忘抄	水谷三郎 (29)
実教歌壇	宮柊二選 (9)
実教俳壇	星野麦丘人選 (15)

第21巻第5号：1969年5月1日

(国立国会図書館)

〈特集〉中学数学の新指導要領をめぐって	
中学数学新指導要領について	福原満洲雄 (1)
中学数学指導要領概観	仲田紀夫 (4)
新指導要領 (中学数学) の問題点	山内俊爾 (8)
「集合・論理」の領域から教材の構造・展開の実際まで	小泉寂人 (12)
新指導要領による指導計画と新しい指導のひとつの試み	田頭一郎 (18)
高校教育の再検討	谷萩操 (28)
学級日誌再考	小柳津五男 (23)
備忘抄	水谷三郎 (23)

- 実教歌壇 宮柊二選 (24)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (25)
- 第 21 巻第 6 号：1969 年 6 月 1 日
 (国立国会図書館)
- アラブの一湖水
 — 8～11 世紀の地中海世界 — 護雅夫 (1)
 高校の日本史における民衆のとらえ方について
 おおのいさお (6)
 座談会 現代的問題と社会科教師 (12)
 「倫理・社会」の授業の実態 野々山正司 (26)
 備忘抄 水谷三郎 (25)
 実教歌壇 宮柊二選 (5)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (24)
- 第 21 巻第 7 号：1969 年 7 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 化学教育について 野村祐次郎 (1)
 情報処理の生物学 桑原万寿太郎 (5)
 惑星の地質学と気象学 宮本正太郎 (9)
 生物教育のゆくえ 庄司定克 (13)
 化石の年齢 大森昌衛 (16)
 化学実験への配慮について 山崎裕司 (18)
 座談会 物理教育のあり方をめぐって (24)
 備忘抄 水谷三郎 (21)
 実教歌壇 宮柊二選 (22)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (23)
- 第 21 巻第 8 号：1969 年 8 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 古典の尊重 宇野精一 (1)
 源氏物語における準拠の意味 石田穰二 (6)
 雑記—ほんとうは「文法的設問」の弁解
 岡村和江 (10)
 故事の指導について 田部井文雄 (14)
 深田久彌氏を囲んで
 深田久彌・長野嘗一・山田昭全 (19)
 額田王の家系 窪田薫 (30)
 備忘抄 水谷三郎 (29)
 実教歌壇 宮柊二選 (5)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (28)
- 第 21 巻第 9 号：1969 年 9 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 高校数学の新指導要領に望む 船山良三 (1)
 高校数学教育における代数教材 五十嵐陟 (6)
 中学指導要領の改訂にともなう
 新しい高校幾何の指導について 鬼沢忠夫 (10)
- 中学新指導要領「変換」の高校での発展
 中原丈夫 (16)
 高校における確率・統計の指導プラン 淀繁弘 (24)
 高校教師の研究活動推進のために 佐藤満洋 (29)
 教師の年齢 志田俊 (30)
 定時制教育に思うこと 横田弘之 (31)
 備忘抄 水谷三郎 (22)
 実教歌壇 宮柊二選 (9)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (23)
- 第 21 巻第 10 号：1969 年 10 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 憲法第 25 条の解釈をめぐって
 — プログラム規定説への疑問に答える —
 山崎芳夫 (1)
 破壊されていく桐生市内の遺跡
 — 特に神明山遺跡について — 藺田芳雄 (8)
 「全倫研」研究大会報告 小川一郎 (14)
 ワシントン会議の主力艦制限比率 永浜先義 (7)
 座談会 現代インドとカースト制度
 — その歴史と行くえを探る — (19)
 備忘抄 水谷三郎 (13)
 実教歌壇 宮柊二選 (17)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (18)
- 第 21 巻第 11 号：1969 年 11 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 教育課程の改訂と高校理科 林淳一 (2)
 海洋開発の夢二夜 星野通平 (6)
 高校における気象教育について 根本順吉 (10)
 高校段階で発生・遺伝をどう扱うか
 — 現代化の立場から — 稲瀬正夫 (16)
 化学変化とエネルギー概念の指導法の展開例
 長谷川俊明 (20)
 NHK テレビ高等学校理科(生物)を授業に取り入れて
 正徳光紀 (24)
 理科教科書に思う
 — 教科書内容の平易化について —
 平田泰世 (27)
 備忘抄 水谷三郎 (15)
 実教歌壇 宮柊二選 (5)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (26)
- 第 21 巻第 12 号：1969 年 12 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 古典と現代文学
 — 凡庸なる自伝 — 長野嘗一 (1)
 高等学校教育課程の改訂をめぐって
 — 国語を中心に — 山井湧 (4)

史記の読み方

- 項羽本紀をめぐる — 青木五郎 (12)
 授業研究 「鼻」を教えてみて 山田桂子 (16)
 座談会 暉峻先生大いに語る (22)
 備忘抄 水谷三郎 (21)
 実教歌壇 宮柊二選 (11)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (20)

第22巻第1号：1970年1月1日

(国立国会図書館)

- 「数学一般」の指導プラン (私案) 高瀬春雄 (1)
 農業科の数学教育課程 樋口明 (8)
 工業高校における数学教育 染谷弘 (14)
 商業高校におけるこれからの数学教育 色川孟 (22)
 人間教育を忘れた進学体制強化 木村修康 (30)
 教師という職業 菅原裕 (32)
 備忘抄 水谷三郎 (29)
 実教歌壇 宮柊二選 (21)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (28)

第22巻第2号：1970年2月1日

(国立国会図書館)

- 世界地誌への問い 寺沢正巳 (1)
 “現代社会”学習の一つの試み 阪東淑子 (29)
 座談会 社会科から何を学んだか
 — 高校三年生の発言をめぐる — (8)
 備忘抄 水谷三郎 (28)
 実教歌壇 宮柊二選 (26)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (27)

第22巻第3号：1970年3月1日

(国立国会図書館)

- 周期律余話 白井俊明 (1)
 南蛮医学と南蛮寺 井上清恒 (5)
 地下水・コンピュータ・教科書 柴崎達雄 (9)
 化学実験とモデル 中西啓二 (14)
 生物教育におけるオーバー・ヘッド・プロジェクター
 の効果を考える 野坂健三 (21)
 電磁波はむずかしいか 江沢洋 (25)
 ある日の私の授業
 — 物理への興味と学習の意義に関連して —
 小島昌夫 (29)
 備忘抄 水谷三郎 (20)
 実教歌壇 宮柊二選 (18)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (19)

第22巻第4号：1970年4月1日

(国立国会図書館)

- 古事記・万葉集にみられる日本人のころ
 倉野憲司 (1)
 改訂される高等学校の「国語」 森本元子 (5)
 私の教育観 蛭川幸茂 (10)
 古典と現代文学 (2)
 — 凡庸なる自伝 — 長野晋一 (14)
 韻をつかむ話 望月真澄 (18)
 「現代国語二」(三訂版) 新教材「富岳百景」鑑賞
 山田昭全 (22)
 「愚公山を移す」私考 松崎治之 (26)
 新聞編集はどう指導するか 大塚正文 (30)
 備忘抄 水谷三郎 (29)
 実教歌壇 宮柊二選 (9)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (17)

第22巻第5号：1970年5月1日

(国立国会図書館)

- 新数学Iにおける写像および写像としての関数の指導
 並木康 (1)
 数学Iの新指導要領による教材展開 確率について
 井村誠司 (10)
 論理の指導について 松本清次郎 (18)
 アルゴリズムについて
 — 指導要領改訂に望む — 片岡五十雄 (25)
 備忘抄 水谷三郎 (25)
 実教歌壇 宮柊二選 (9)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (17)

第22巻第6号：1970年6月1日

(国立国会図書館)

- 戦後のマルクス主義思想
 — 「主体性」の問題をめぐる — 城塚登 (1)
 アメリカの議会 — その特殊性 — 泉昌一 (24)
 〈特集〉現場からの発言
 思想とは何かをめぐる 岡村道雄 (10)
 高校生と愛国心 堀川俊章 (12)
 ある研究授業の試みから 白鳥麻夫 (14)
 世界史の授業で何を学べたか 吉田悟郎 (16)
 地理をどのように教えるか 山岸徳治 (19)
 備忘抄 水谷三郎 (25)
 実教歌壇 宮柊二選 (9)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (17)

第22巻第7号：1970年7月1日

(国立国会図書館)

ねこのひげ 橘高重義 (1)

ニオイと物質の化学構造 井上清恒・紺野邦夫 (4)

東南アジア旅行記 神山雅英 (10)

指導要領と教科書 野村祐次郎 (21)

指導要領改訂にあたって新教科書に望む

〈化学〉 長谷川俊明／青木俊一／横内芳弘／

木村寛治／伊東正一郎／古村典雄／

谷口孝次／阿蘇和雄／大島信六／

坂井千是

〈地学〉 宮本正太郎／大森昌衛／山下昇／

新井房夫／林等／小森長生／長谷川正／

小林忠夫

校長訓話 竹内徹 (29)

制服・制帽 井口祐夫 (30)

国際原子量表の改訂について (27)

備忘抄 水谷三郎 (26)

実教歌壇 宮柊二選 (13)

実教俳壇 星野麦丘人選 (25)

〈付録〉新学習指導要領(案)〈理科〉 付1

第22巻第8号：1970年8月1日

(国立国会図書館)

国語教育に於ける不易流行

— 雑文集化した「現代国語」— 塩田良平 (1)

漢文教育の不易と流行

— 戦前戦後の漢文教育 — 巨勢進 (16)

高等学校新学習指導要領(案)国語科について

大矢武師 (5)

新指導要領をどう受けとめるか

— ある平均的国語教師の感想 — 堀切実 (25)

新指導要領についての所感

— 国語科を中心として — 鈴木総一 (29)

国語教育に思うこと 松尾靖秋 (12)

阿呆律 小林高寿 (24)

備忘抄 水谷三郎 (26)

実教歌壇 宮柊二選 (13)

実教俳壇 星野麦丘人選 (25)

〈付録〉

新学習指導要領(案)〔国語〕 付1

第22巻第9号：1970年9月1日

(国立国会図書館)

新指導要領(案)について 福原満洲雄 (1)

新指導要領の問題点

— 不統一、不明確、不親切 — 船山良三 (6)

座談会 数学は語るものにあらず (14)

実教歌壇 宮柊二選 (11)

実教俳壇

星野麦丘人選 (12)

備忘抄 水谷三郎 (13)

〈付録〉新学習指導要領(案)〈数学〉 付1

第22巻第10号：1970年10月1日

(国立国会図書館)

イギリスの選挙制度について 三沢潤生 (1)

「英王は君臨すれども統治せず」について

上野格 (30)

もしも江戸時代に生まれていたら 井上隆男 (24)

〈特集〉現場からの提言

7年目の倫理・社会 逢坂俊男 (10)

政治・経済担当者の悩み 武田良実 (13)

質問から学ぶもの 吉村徳蔵 (15)

歴史をなぜ学ぶのか 松崎徹 (17)

野外調査の効果 星野朗 (19)

テストと評価 糟谷奨 (27)

おもなできごと 〈1970.5.20～8.20〉 (26)

実教歌壇 宮柊二選 (11)

実教俳壇 星野麦丘人選 (12)

備忘抄 水谷三郎 (13)

第22巻第11号：1970年11月1日

(国立国会図書館)

IPS 雑感 兵藤申一 (1)

分析の楽しみ 長島弘三 (5)

ppm 井口洋夫 (10)

植物の神経 柴岡孝雄 (18)

日本海の成因をめぐって 藤田至則 (30)

「公害」をどう教えるか 宮崎一郎 (14)

TP の特質と「実教 TP / 生物」 岩瀬徹 (24)

実教歌壇 宮柊二選 (13)

実教俳壇 星野麦丘人選 (22)

備忘抄 水谷三郎 (23)

第22巻第12号：1970年12月1日

(国立国会図書館)

特集 現代国語と古典との間

「現代国語」と「古典」との間 増淵恒吉 (1)

古典を中心とした雑感 杉崎俊夫 (5)

これからの国語科 江連隆 (10)

〈座談会〉現代国語と古典との間

— 高校国語教育の問題点を探る — (24)

旅の力 — 遼空短歌と折口学と — 桜井満 (14)

数年来の課題 畑有三 (18)

実教歌壇 宮柊二選 (9)

実教俳壇 星野麦丘人選 (22)

備忘抄 水谷三郎 (23)

第23巻第1号：1971年1月1日

	(国立国会図書館)
「線形計画の考え」の一指導	田原七之助 (1)
「計算機と数値計算」の指導内容	染谷弘 (8)
条件つき確率と事象・試行の独立	小谷美博 (17)
復習のためのやさしいプログラム	
備忘抄	水谷三郎 (21)
実教歌壇	宮柊二選 (7)
実教俳壇	星野麦丘人選 (16)
新学習指導要領〈数学〉	(30)

第23巻第2号：1971年2月1日

	(国立国会図書館)
南北朝鮮の国民生活と教育 — その1 —	渡部学 (1)
〈特集〉現場からの提言	
いかに生徒の質問に答えるか	狩集日出男 (8)
授業と私	塩野入啓晃 (10)
三無主義の状況への対決	山本直英 (12)
新しい生徒の目	井元保 (14)
おもなできごと〈1970.8.21 ~ 12.20〉	(19)
座談会 挑戦を語る	(21)
実教歌壇	宮柊二選 (7)
実教俳壇	星野麦丘人選 (18)
備忘抄	水谷三郎 (20)

第23巻第3号：1971年3月1日

	(国立国会図書館)
高校教育と公害	西ヶ谷信雄 (1)
化石の魅力	亀井節夫 (6)
モグラの生活	手塚甫 (10)
教育機器導入による化学の授業形態	
— 凝固点降下の指導例について —	塩川久男・蓑手重国 (14)
実教 TP / 物理を使って	神藤庄司・井上喜助 (18)
座談会 新カリキュラムをめぐる	
— 高校理科全体をどう押さえるか —	(24)
実教歌壇	宮柊二選 (5)
実教俳壇	星野麦丘人選 (22)
備忘抄	水谷三郎 (23)

第23巻第4号：1971年4月1日

	(国立国会図書館)
— 特集 聞くこと、話すこと —	
「聞くこと、話すこと」の問題点	山田昭全 (1)
よい人間関係をつくるために	
— 話し聞く心がまえ —	岡村和江 (5)
聞くこと、話すこと — について思うこと	
	松尾勝郎 (9)

「聞く、話す」の指導について	森本滋 (14)
中学校における「聞くこと、話すこと」	
— 国語教師の体験と反省 —	近藤弘也 (18)
歳時民族記 (1) 大和の春	桜井満 (22)
素読の効用	塩谷恒 (25)
漢文教育の問題点	田坂文穂 (26)
短歌とともに	児玉輝之 (30)
〈投稿〉読者を宿題にして	中野忠 (28)
実教歌壇	宮柊二選 (13)
実教俳壇	星野麦丘人選 (29)
備忘抄	水谷三郎 (24)

第23巻第5号：1971年5月1日

	(国立国会図書館)
計算法のアルゴリズム — 私の体験から —	飛岡正治 (1)
小問形式による学習指導	岩瀬重雄 (7)
研究授業 / 指数関数	早崎準一郎 (13)
確率の考えを応用した指導例	中村重和 (20)
推定・検定指導の一試案	田舎鉄一 (27)
実教歌壇	宮柊二選 (12)
実教俳壇	星野麦丘人選 (26)
備忘抄	水谷三郎 (19)

第23巻第6号：1971年6月1日

	(国立国会図書館)
南北朝鮮の国民生活と教育 (その2)	
— 北朝鮮の教育 —	渡部学 (1)
〈特集〉現場からの提言	
哲学すること	橘哲哉 (6)
授業改善への試行	高森充 (8)
井元保氏の「提言」をよんで	鈴木亮 (10)
質問・感想ノートの中から	都築亨 (14)
おもなできごと〈1970.12.21 ~ 1971.4.20〉	
大正期の民衆の政治意識	金原左門 (21)
実教歌壇	宮柊二選 (17)
実教俳壇	星野麦丘人選 (18)
備忘抄	水谷三郎 (19)

第23巻第7号：1971年7月1日

	(国立国会図書館)
“裸のサル”の好奇心	渡辺一衛 (1)
電磁気の実験報告	桜井謙肆 (5)
高校化学における学習評価の事例研究	
	大森泰弘 (10)
実教 TP (化学) を使ったの実験記録	
	仲下雄久 (14)
実験教材としてのアルテミアの活用 (1)	
	水越虔二 (18)

- 地震について (1) 宮本貞夫 (24) 備忘抄 水谷三郎 (29)
 河川の汚濁と水生昆虫 (1) 井出嘉雄 (28) 実教歌壇 宮柊二選 (9)
 実教歌壇 宮柊二選 (9) 実教俳壇 星野麦丘人選 (19)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (23)
 備忘抄 水谷三郎 (27)
- 第 23 卷第 8 号 : 1971 年 8 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 高校国語における文法教育のあり方 堀田要治 (1)
 訓読と漢文法 大竹修一 (8)
 私の文法教育雑感 伊藤文夫 (22)
 私の文法教育法 水越虔二 (22)
 三十余年の文法教育から 半田正義 (12)
 中学と高校を通じて 高橋六二 (18)
 歳時民俗記 (2) 夏のしるし 桜井満 (26)
 味噌と鉛筆削り 伊東典郎 (24)
 わが心を俳句に託し 守屋芳水 (25)
 ある一首 片山紘 (25)
 〈投稿〉
 私の詠み方 — 児玉輝之先生に呈す — 若林芳樹 (28)
 日本語をもっと大事に 佐藤和夫 (31)
 実教歌壇 宮柊二選 (7)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (17)
 備忘抄 水谷三郎 (30)
- 第 23 卷第 9 号 : 1971 年 9 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 不定積分から定積分へ
 — その問題点 — 反町孝治 (1)
 ある指導 田端湜 (6)
 — 現場の一教師の苦しみ — 片桐重延 (10)
 アルゴリズムの指導 平博徳 (22)
 ベクトル・行列・一次変換について思うこと 繁田淳臣 (16)
 テレビ・ラジオの数学雑感 宮柊二選 (20)
 実教歌壇 星野麦丘人選 (21)
 実教俳壇 水谷三郎 (28)
 備忘抄 野坂健三 (29)
 〈投稿〉私の海外めぐり
- 第 23 卷第 10 号 : 1971 年 10 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 台湾略史 戴国輝 (1)
 日台経済関係 76 年 中兼和津次 (10)
 日中関係における台湾 寺沢一 (20)
 私にとっての台湾 尾崎秀樹 (16)
 <資料>台湾の政治体制 陳仁端 (30)
 台湾に関する名称の移り変わり (31)
- 異常な水 白井俊明 (1)
 人間と自然との交歓 増賀光一 (6)
 力のおよぼしあい 西岡佑治 (10)
 欧米の化学教育と教育機器 真井弥作 (16)
 実験教材としてのアルテミアの活用 (2) 水越虔二 (22)
 河川の汚濁と水生昆虫 (2) 井出嘉雄 (25)
 地震について (2) 宮本貞夫 (30)
 実教歌壇 宮柊二選 (5)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (15)
 備忘抄 水谷三郎 (21)
- 第 23 卷第 12 号 : 1971 年 12 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 西鶴の転進
 — 元禄初年の三部作 — 暉峻康隆 (1)
 特集 漢字教育
 幼稚園・小学校の漢字教育について 石井勲 (6)
 中学校漢字教育の現状と問題点 羽柴弘 (10)
 高等学校における漢字教育
 — 書き取り帳の限界 — 水野公宣 (14)
 兄の思い出 折原澄子 (20)
 歳時民俗記 (3) 飽き食いの祭り 桜井満 (18)
 〈対談 この人を訪ねて〉
 友・物理学・趣味 — 対独時代の思い出 — 朝永振一郎・山田昭全 (26)
 実教歌壇 宮柊二選 (5)
 実教俳壇 星野麦丘人選 (24)
 備忘抄 水谷三郎 (25)
- 第 24 卷第 1 号 : 1972 年 1 月 1 日
 (国立国会図書館)
- 国家観の歴史
 — アリストテレスからホッブスまで — 城塚登 (1)
 戦後国際秩序における日中関係
 — 日米中ソ相互の関係に関連して — 筒井若水 (10)

国連から帰って

— 中国の国連入りと日本 —

寺沢一 (26)

資料

(22)

台湾へ進出している主要企業

日本の貿易に占めるアメリカの割合

アメリカの輸出入額に占める各国の割合

アジア諸国のおもな輸出先・輸入先

主要国の金・外貨準備

中国代表権問題表決結果

実教歌壇

宮柊二選 (20)

実教俳壇

星野麦丘人選 (21)

備忘抄

水谷三郎 (25)

第24巻第2号：1972年2月1日

(国立国会図書館)

科学にたずさわるものの使命と責任

川崎昭一郎 (1)

自然保護の考え方

広井敏男 (6)

食品公害と有害食品

岩尾裕之 (10)

日本の土地利用

松井健 (25)

大気汚染の測定

福岡三郎 (14)

高校生で使える公害測定器

宮崎一郎 (20)

私の書評 『日本化石集』

新堀友行 (30)

ごはんはいくらかんでもあまくならない

川上弘見 (31)

実教歌壇

宮柊二選 (5)

実教俳壇

星野麦丘人選 (23)

備忘抄

水谷三郎 (24)

第24巻第3号：1972年3月1日

(国立国会図書館)

社会科教育資料 No.10

ファシズムとは何か

三宅正樹 (1)

国家観の歴史 (下)

— 現代の国家論 —

城塚登 (12)

古代遊牧国家

— 帝国の成立—突厥の場合 —

護雅夫 (16)

中国の政治

— その諸原則を通じ —

福島正夫 (26)

考古学の最近の業績

上野佳也 (22)

実教歌壇

宮柊二選 (11)

実教俳壇

星野麦丘人選 (24)

備忘抄

水谷三郎 (25)

第24巻第4号：1972年4月1日

(国立国会図書館)

理科資料 No.10

高校の物理教育

今井功 (1)

ヤドリギはどこまで寄生木か

— その「正」態について —

広井敏男 (5)

気候の変化とその原因

根本順吉 (14)

〈新指導要領における新しい概念〉

電子のエネルギー準位

井口洋夫 (10)

大気汚染の測定 — その2 —

福岡三郎 (18)

紙芝居を发表形式とした地学のグループ学習 (1)

坂井信栄 (22)

科学史を使用した生物教育

加藤信行 (29)

私の書評 「世界動物百科」「アニマルライブ」

太田弘 (28)

実教歌壇

宮柊二選 (9)

実教俳壇

星野麦丘人選 (26)

備忘抄

水谷三郎 (27)

第24巻第5号：1972年5月1日

(国立国会図書館)

社会科資料 No.11

地方自治のしくみと役割

小沢辰男 (1)

封建社会はいつ成立したか

直木孝次郎 (11)

情報化社会

鈴木格 (16)

中世の女性たち

原田伴彦 (29)

資料 米中共同声明 (仮訳)

(26)

実教歌壇

宮柊二選 (15)

実教俳壇

星野麦丘人選 (25)

備忘抄

水谷三郎 (24)

第24巻第6号：1972年6月1日

(国立国会図書館)

国語科資料 No.10

帚木の冒頭について

石田穰二 (1)

漢文の学習指導に関する二、三の意見

— 通信教育放送の経験から —

山井湧 (12)

塩田良平君の思い出

倉野憲司 (7)

歳時民俗記 (4) ふゆごもり春

桜井満 (16)

座談会 文学者の青春 — その1 —

瀬沼茂樹・芝木好子・小田切進・山田昭全

第24巻第7号：1972年7月1日

(国立国会図書館)

理科資料 No.11

不純物

橘高重義 (1)

これからの宇宙像

宮本正太郎 (12)

〈新指導要領における新しい概念〉

分子の極性と荷電分布

長島弘三 (4)

〈生物学における基本概念〉

ホメオスタシス

井上清恒 (8)

紙芝居を发表形式とした地学のグループ学習 (2)

坂井信栄 (18)

対談 人間生活と自然

— 環境問題と高校生物教育をめぐって —

門司正三・富樫裕 (23)

実教歌壇

宮柊二選 (11)

実教俳壇

星野麦丘人選 (17)

備忘抄

水谷三郎 (22)

第24巻第8号：1972年8月1日

(国立国会図書館)

国語科資料 No.11

小督をめぐって

— 平家物語より —

長野嘗一 (1)

座談会 文学者の青春 — その2 —

瀬沼茂樹・芝木好子・小田切進・山田昭全 (12)

歳時民俗記 (5) 花見

桜井満 (22)

〈対談 この人を訪ねて〉

詩とは何か — 伊東静雄「春浅き」をめぐって —

谷川俊太郎・畑有三 (24)

第24巻第9号：1972年9月1日

(国立国会図書館)

アメリカの経済と財政

— 現代資本主義の基本構造を理解するために —

池上惇 (1)

アメリカにおける「新中間層」の問題

矢沢修次郎 (10)

アメリカの東アジア政策

— 変遷と伝統 —

有賀貞 (25)

日本とアメリカ — 在日米人教師の感想 —

RONALD L. NADO (20)

生徒のための図書紹介

仁木久 (18)

質問の窓口

(24)

実教歌壇

宮柊二選 (8)

実教俳壇

星野麦丘人選 (9)

備忘抄

水谷三郎 (19)

第24巻第10号：1972年10月1日

(国立国会図書館)

社会科資料 No.13

日本の物価

遠藤昌雄 (1)

ヒューマニストラッセルの平和主義と実践

日高一輝 (12)

「アジア的生産様式」をめぐって

塩沢君夫 (25)

生徒のための図書紹介

本田徹夫 (20)

質問の窓口

(24)

実教歌壇

宮柊二選 (11)

実教俳壇

星野麦丘人選 (22)

備忘抄

水谷三郎 (23)

第24巻第11号：1972年11月1日

(国立国会図書館)

理科資料 No.12

自然と自然保護

湊正雄 (1)

アメリカザリガニの脱皮とカルシウム量の変化

柿沼清 (14)

〈新指導要領における新しい概念〉

融点・沸点と分子間力・結合力

岡本一 (8)

〈生物学における基本概念〉

エネルギー変換の本質

藤茂宏 (10)

生徒に読ませたい科学図書の紹介とその指導

博司・塚原徳道・富樫裕・鈴木養身 (22)

私の書評

青木俊一 (20)

実教歌壇

宮柊二選 (18)

実教俳壇

星野麦丘人選 (19)

備忘抄

水谷三郎 (21)

(おだか すすむ 本学准教授)

(まるやま つよし 本学非常勤講師)